

# **第4回日田彦山線復旧会議検討会**

**2019年1月31日**

# 目次

---

○継続的な運行の確保を実現するための様々な知恵出し (P.3～P.6)

- ・利用促進策の収支改善効果について
- ・収支改善の目標額について

○代行バスアンケートについて (P.7～P.19)

- ・代行バスアンケート(自治会配布用)<sup>※</sup>の中間報告

※以下、自治会アンケートと表記

# 利用促進策の収支改善効果について ～代表例～

## 普段使い

- ・デマンドタクシーの新設(日田市)  
大鶴地区にデマンドタクシーを  
運行し、列車との接続を改善して、  
JR利用者数の増加を図る

・JR利用者数 年間2,974人増加

- ・大鶴駅～夜明、今山～夜明で利用者数を案分

【増収効果】 775,880円 / 年  
(自治体・JR九州共通)

## イベント(期間型)

- ・トレイルランニング、フットパス等の  
モデルコースの確立(東峰村)  
美しい景観を活用したコースを  
策定し、イベントを実施することで  
JR利用者数の増加を図る。

・JR利用者数 自治体試算 年間 1,000人増加  
JR九州試算 年間 396人増加

- ・添田～大行司、大行司～夜明で利用者数を案分

【増収効果】 自治体試算 722,300円 / 年  
JR九州試算 285,900円 / 年

## 観光振興(通年型)

- ・英彦山を核とした観光振興(添田町)  
修験道と野遊びの体験型商品の  
提供と宿泊者への割引を行うことで  
JR利用者数の増加を図る。

・JR利用者数 自治体試算 年間 14,100人増加  
JR九州試算 年間 570人増加

- ・添田～彦山、彦山～夜明で利用者数を案分

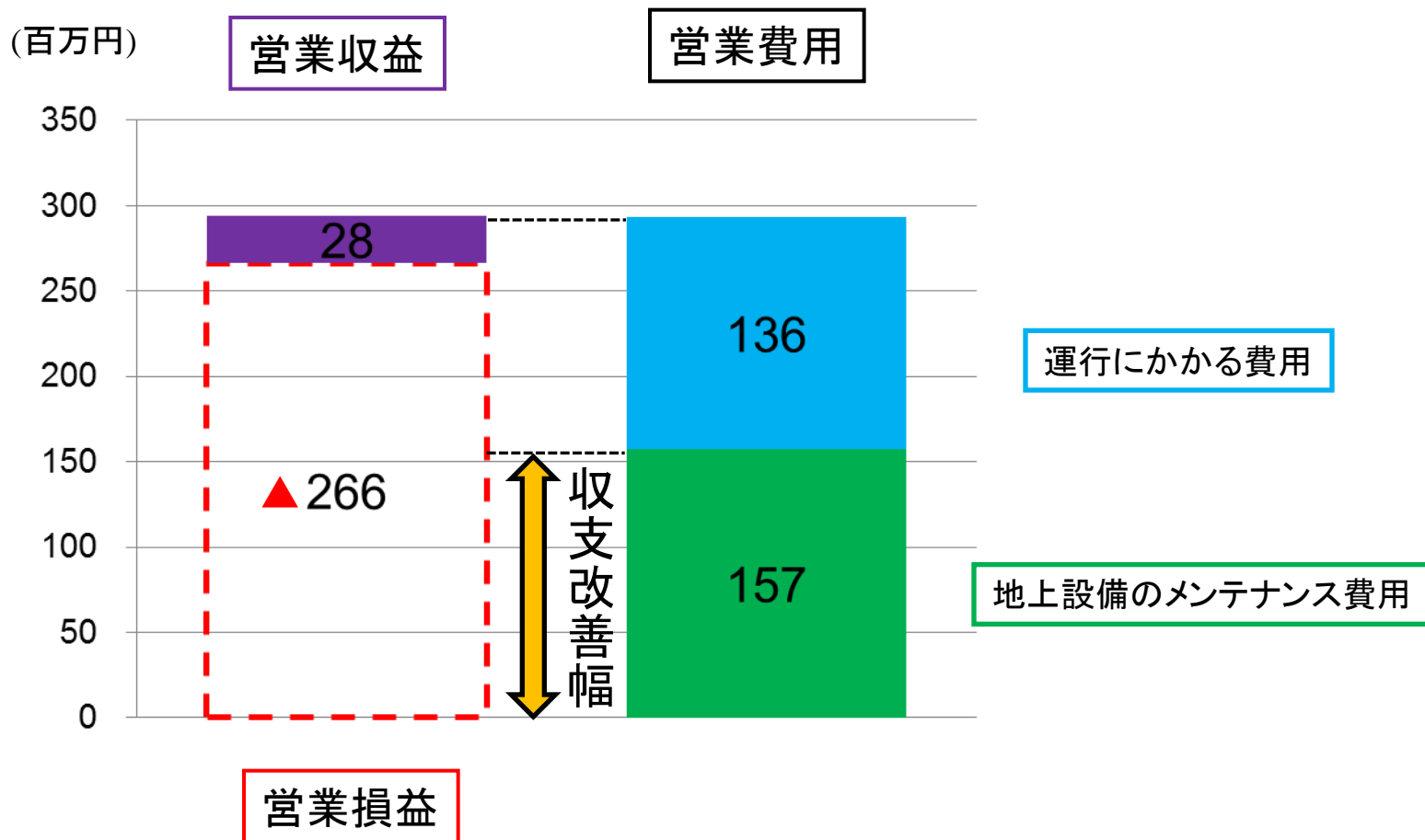
【増収効果】 自治体試算 8,165,920円 / 年  
JR九州試算 330,280円 / 年

# 利用促進策の収支改善効果について

利用促進の カテゴリー	増収効果（千円/年）	
	自治体試算	JR九州試算
普段使い	859	776
イベント （期間型）	7,920	2,634
観光振興 （通年型）	16,429	402
<b>合計</b>	<b>25,208</b>	<b>3,812</b>

# 日田彦山線(添田～夜明)の収支改善の目標額について【JR九州】

## 2016年度日田彦山線(添田～夜明)収支状況



# 日田彦山線(添田～夜明)の収支改善の目標額について【JR九州】

継続的な運行の確保のためには、地上設備のメンテナンスコスト相当である1.6億円/年を求めたい

○災害の規模、ご利用の状況等、線区の実態に加え、以下の点を総合的に勘案し、ご利用のお客さま、地域の皆さま、自治体と鉄道事業者が協力して鉄道を維持するための仕組みとして欠かせない。

- ・鉄道軌道整備法の補助を適用しても多額の復旧費を要し、回収期間が長期にわたる
- ・鉄道は装置産業で、毎年多額の運営費用が必要
- ・利用促進策とコスト削減に取り組んできたが、これ以上の削減は困難な状況
- ・地上設備のメンテナンスコストは最も費用を要し、かつ削ることができない
- ・道路は、国・地方公共団体が維持管理を担っているが、鉄道は鉄道事業者が担う仕組み

# 自治会アンケートの概要について

---

## 目的

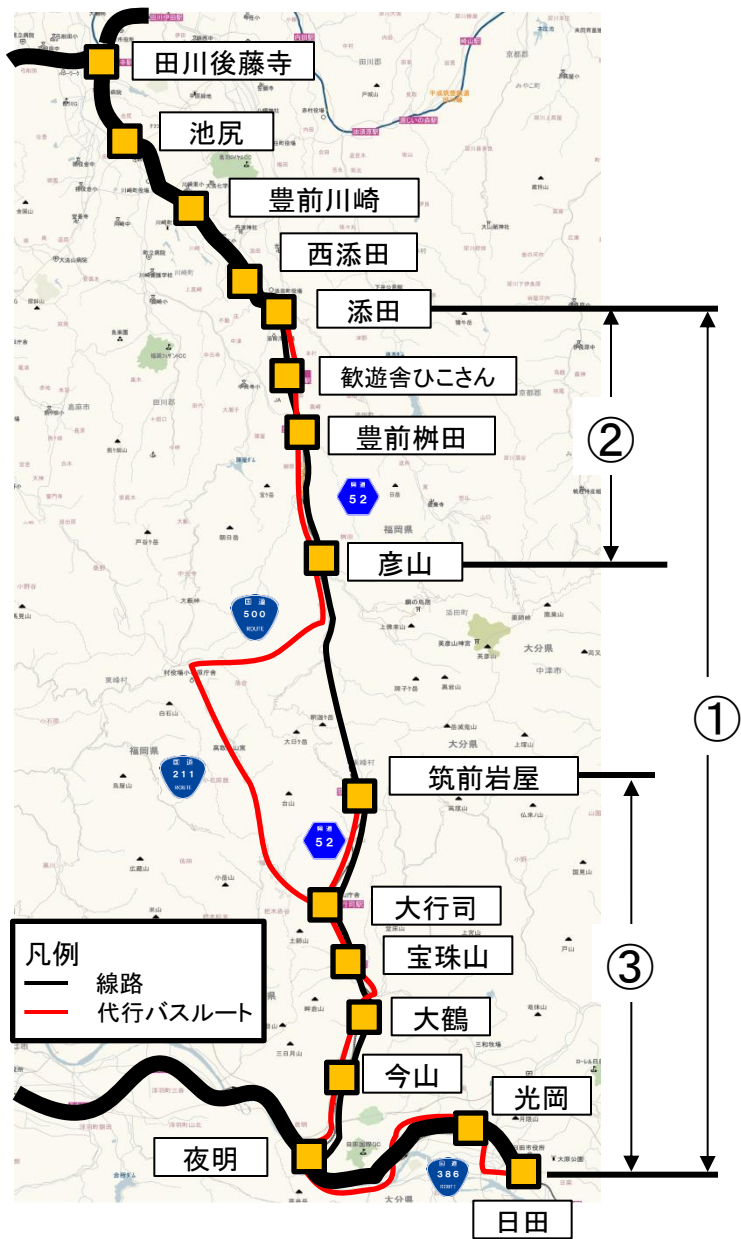
日田彦山線代行バスの運行が長期間に及んでいることから、ご利用のお客さまのご意見・ご要望を把握し、代行バスを運行する上での参考とするため

## 自治会アンケート概要(中間報告:2019年1月24日までの到着分で集計)

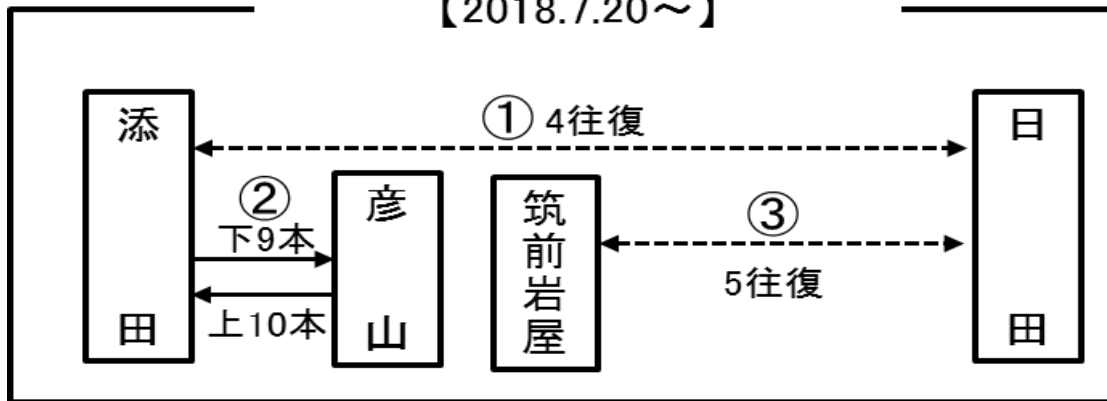
実施期間 2018年12月14日～2019年1月31日

実施方法 各自治会にて配付(2,400世帯※へ配付)  
回答後、返信用封筒にてJR九州へ郵送  
※調査対象世帯は、市町村により選定

# 代行バスの運行ルート



【2018.7.20～】



## バスの種類



車種 マイクロバス



車種 ジャンボタクシー



車種 中型バス

運行区間	車種	定員	運行会社
①	マイクロバス	18名 or 28名	(有)藤山観光
②	ジャンボタクシー	9名	田川構内自動車(株)
③	中型バス マイクロバス	55名 18名 or 28名	西鉄バス久留米(株) (有)藤山観光



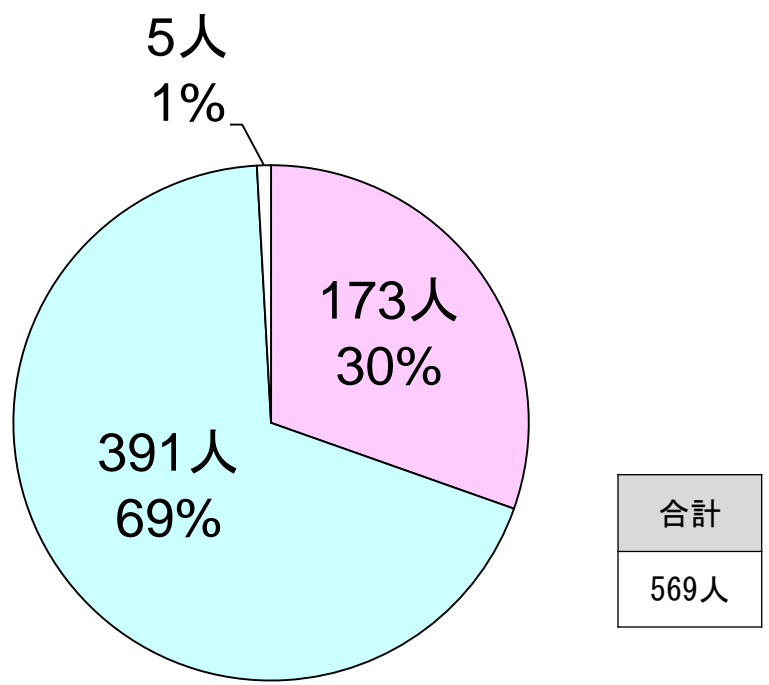
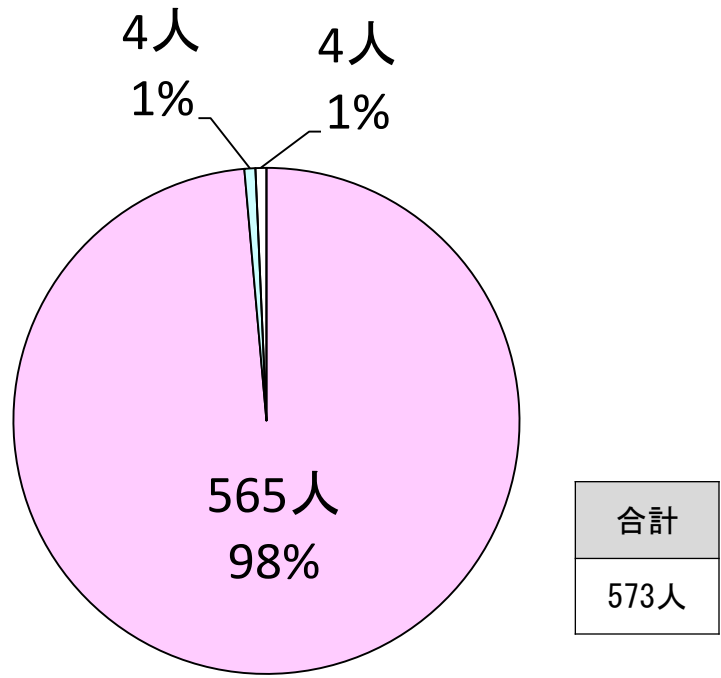
# 自治会アンケート中間報告～代行バスの認知度及びご利用状況～

図1 代行バスの認知度

図2 代行バスの利用状況

■知っている ■知らない □無回答

■利用する ■利用したことがない □無回答



全回答者を対象

代行バスを知っている回答者が対象

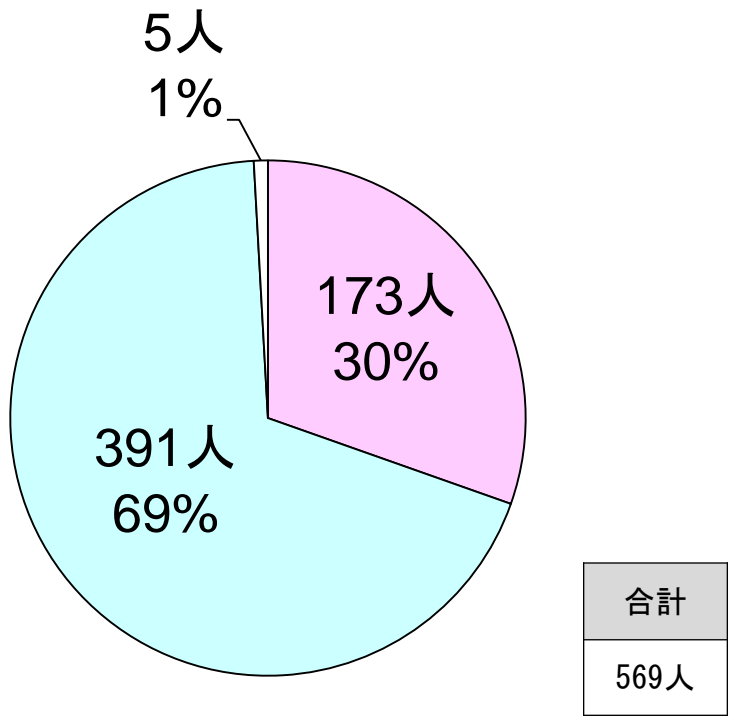
回答者の98%が、  
代行バスを知っている

約7割が、  
利用したことがない

# 自治会アンケート中間報告～代行バスの利用目的～

図2 代行バスのご利用状況

■ 利用する ■ 利用したことがない □ 無回答

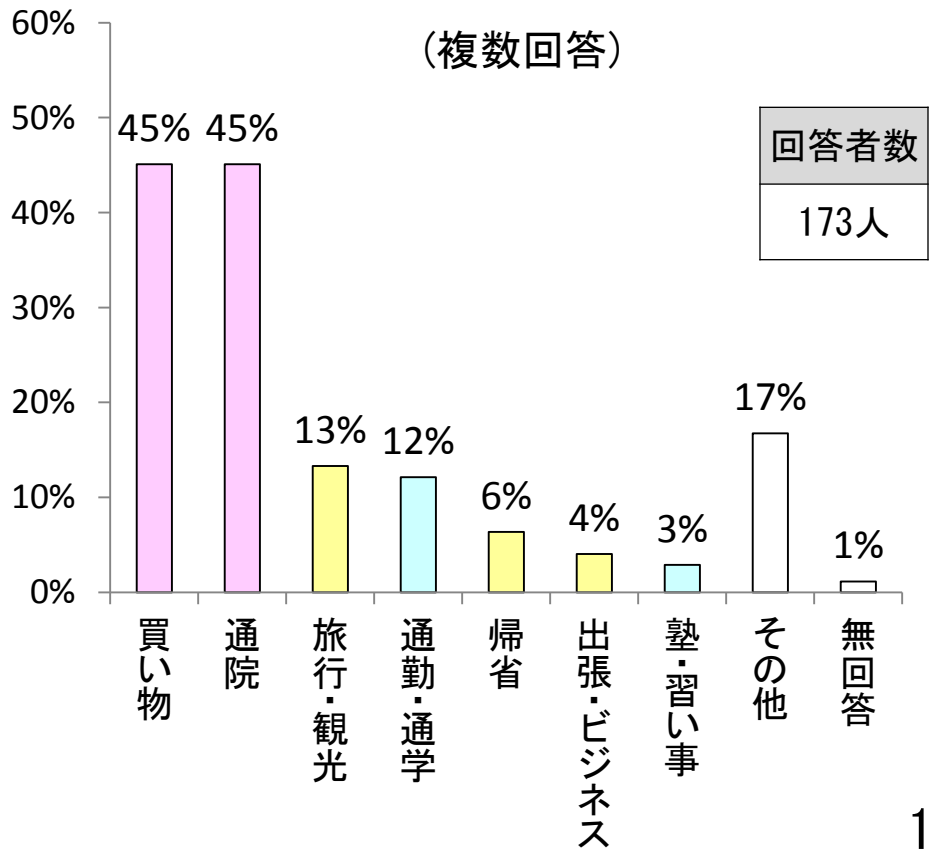


代行バスを知っている回答者が対象

図3 利用目的について

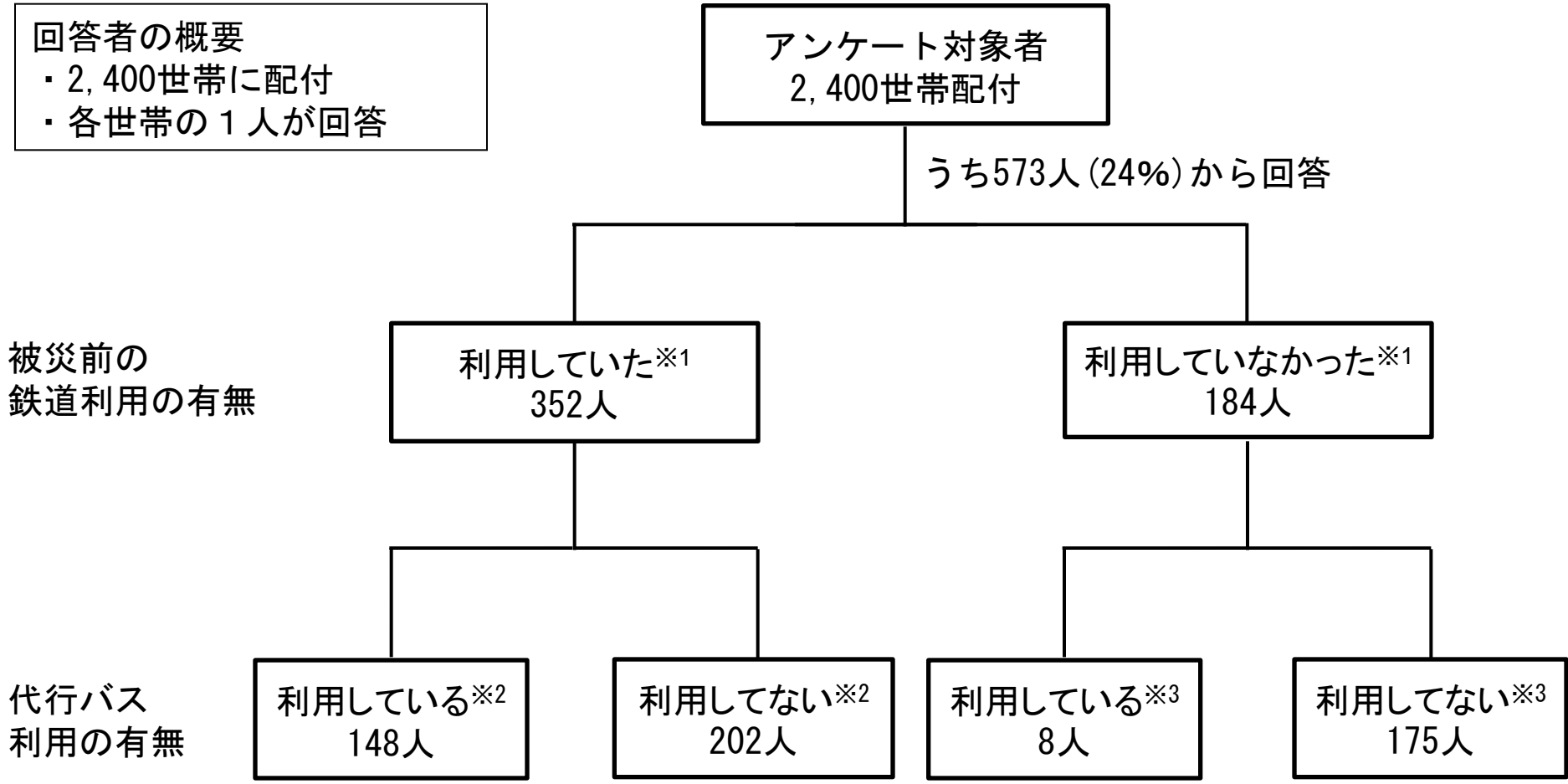
凡例

- 日常でのご利用(買い物・通院)
- 日常でのご利用(通勤・通学・塾・習い事)
- 旅行・観光・帰省・出張等
- その他・無回答



# 自治会アンケート中間報告～代行バスのご利用人数～

## アンケート対象者における代行バスご利用人数

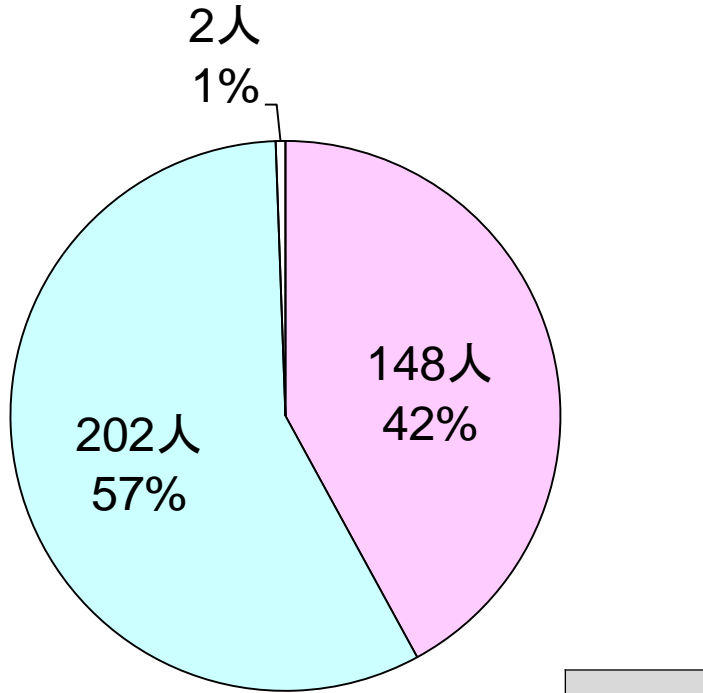


※1 無回答37人  
※2 無回答 2人  
※3 無回答 1人

# 自治会アンケート中間報告～代行バスを利用しない理由（被災前、鉄道利用有）～

図4 代行バスのご利用状況（鉄道利用有）

■ 利用している □ 利用していない □ 無回答

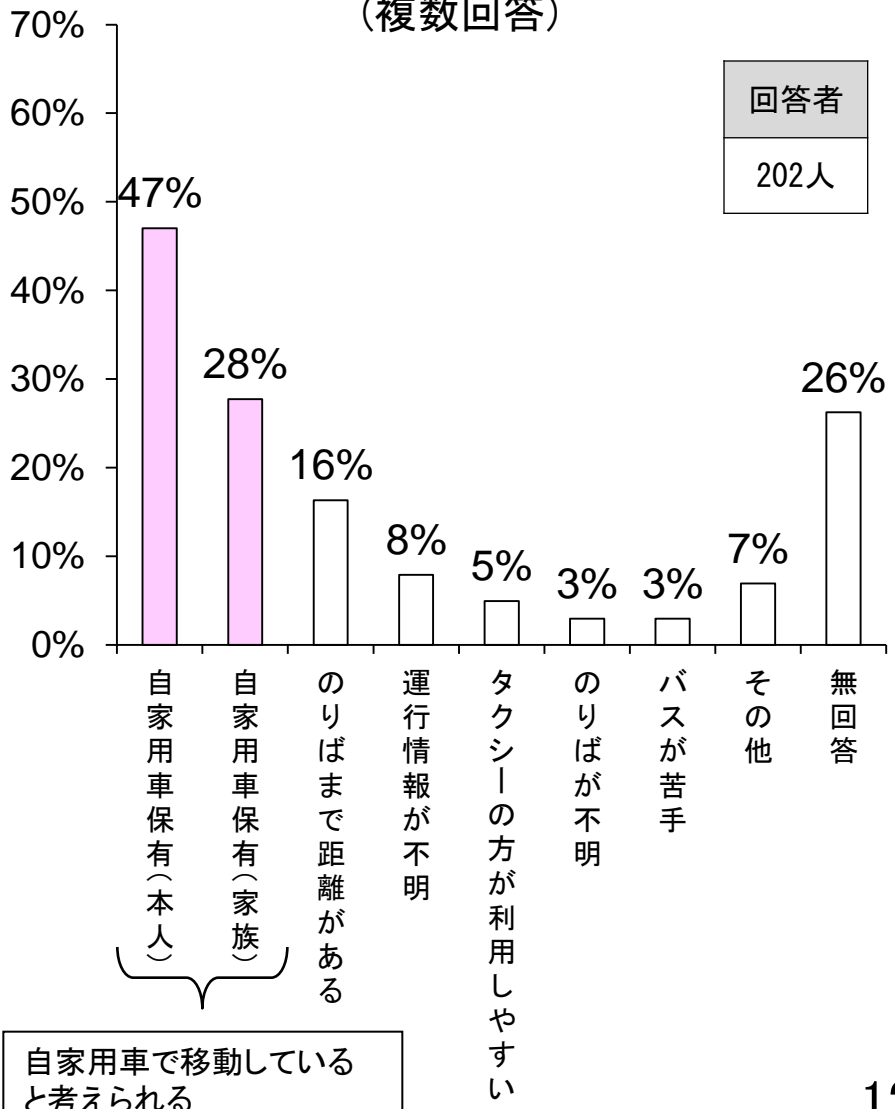


合計  
352人

以前、鉄道を利用していた回答者が対象

図5 代行バスを利用しない理由

(複数回答)

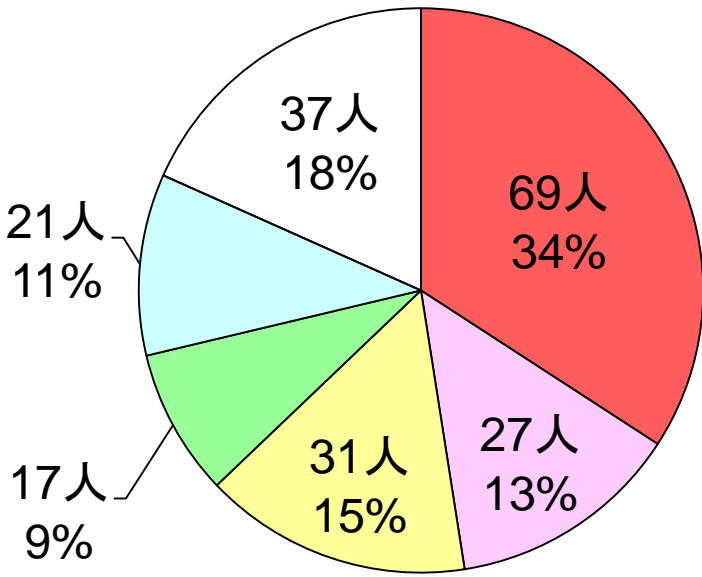


自家用車で移動していると考えられる

# 自治会アンケート中間報告～代行バスを利用しない理由（被災前、鉄道利用有）～

図6 代行バス以外の利用頻度（鉄道利用有）

- ほぼ毎日
- 週3～4回
- 週1～2回
- 月1回程度
- 年数回
- 無回答



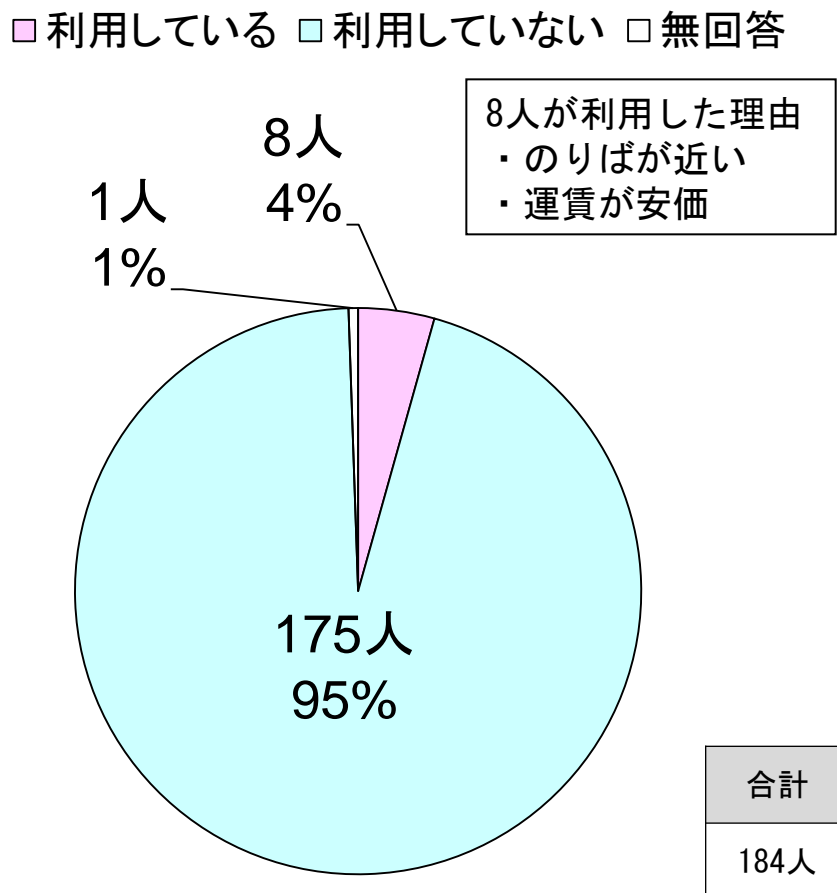
約5割の方が、頻繁に移動している。移動の需要はあるものの、代行バスがその選択肢となっていない。利用促進のために、何かしらの対策を検討する必要がある。

以前、鉄道を利用し、現在、代行バスを利用していない回答者が対象

合計
202人

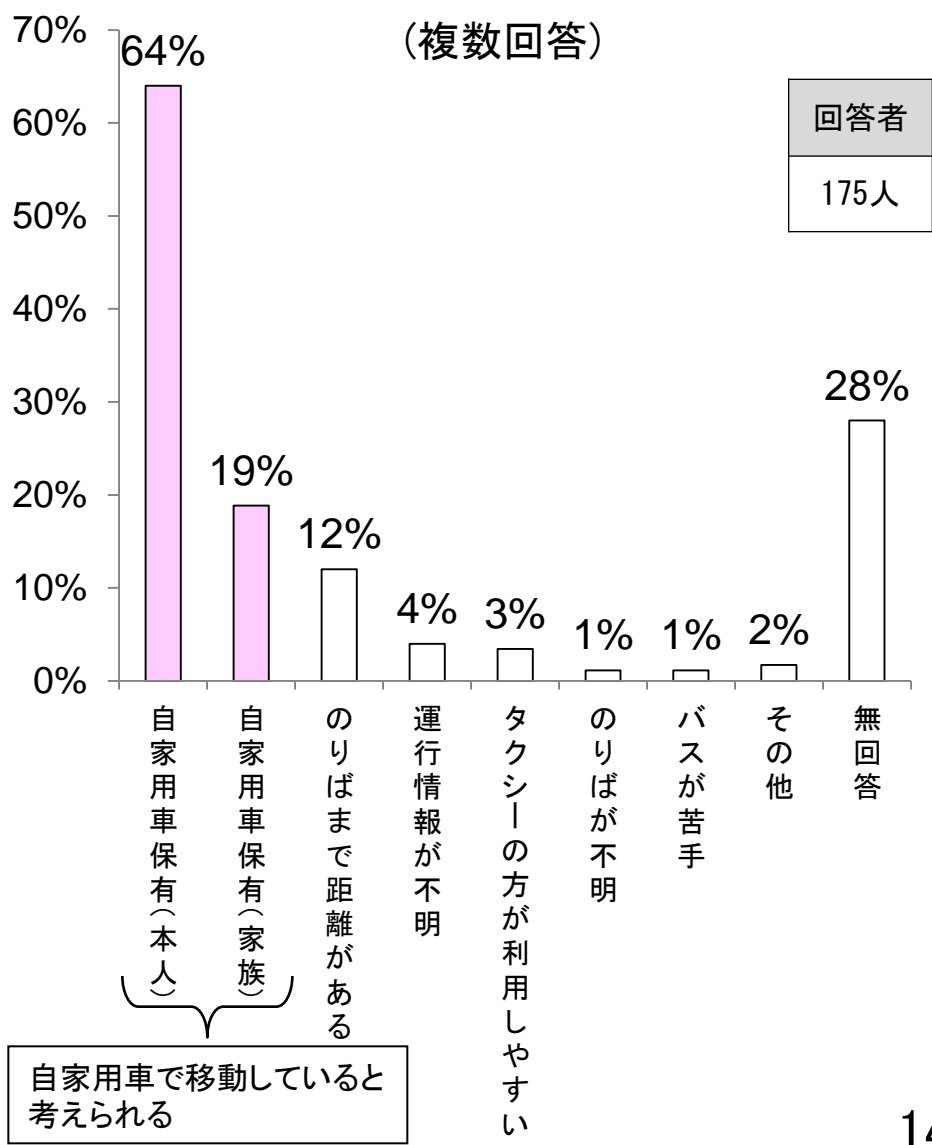
# 自治会アンケート中間報告～代行バスを利用しない理由（被災前、鉄道利用無）～

図7 代行バスの利用状況（鉄道利用無）



以前、鉄道を利用していなかった回答者が対象

図8 代行バスを利用されない理由

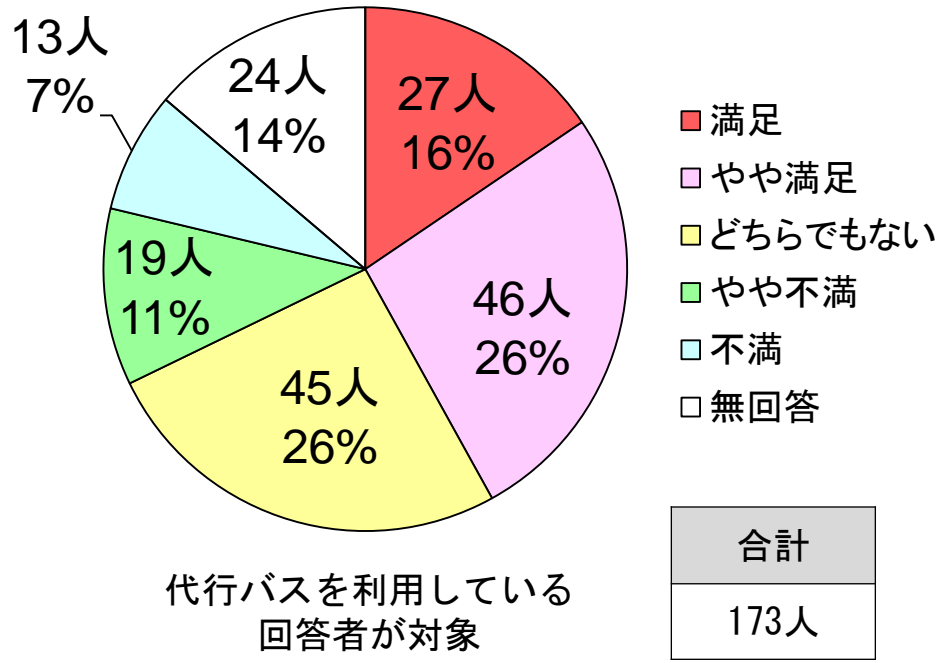


## 今後の課題

今回の中間報告で把握できた内容や、ご意見・ご要望については、すぐに対応できないものも含まれるが、最終報告に向けて検討していく。

また、中間報告以降の回答の取りまとめ結果を踏まえた上で、代行バス運行期間中のサービス改善等の取組むべきことを整理していきたい。

図9 代行バスへの満足度



4割が満足している

合計
173人

代行バス(全般)について

要望内容

乗り方(利用方法)	17
車内放送	13
運賃表(の見方)	13

選択肢以外の意見・要望

- ・ フリー乗降区間の設定(16人)
- ・ 小石原地域での乗降(12人)
- ・ 両替を可能に(7人)
- ・ 増便
- ・ 鉄道と比較して時間がかかる
- ・ 添田行きバスも筑前岩屋で停車
- ・ 他会社のバス停での停車



## のりばについて

### 要望内容

標識の設置	48
時刻表の場所(見やすく)	46
位置の変更(分かりやすく)	28
時刻表の文字(大きく)	25

### 選択肢以外の意見・要望

- ・ のりば増設
- ・ 駅前での乗降
- ・ 屋根等の設置
- ・ 照明の増設
- ・ 改正後のダイヤの明示

## 情報提供について

### 要望内容

遅延情報	39
鉄道との乗り換え	34
情報の問合せ先	29

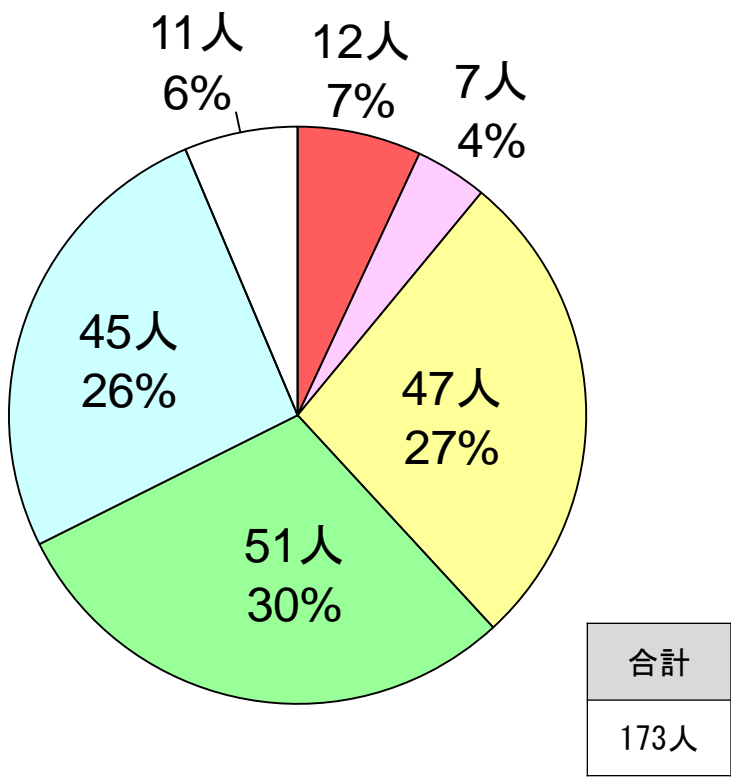
### 選択肢以外の意見・要望

- ・ 自治体広報誌への情報の掲載
- ・ ダイヤ改正時の告知

# 自治会アンケート中間報告～利用頻度～

図10 代行バス利用者の利用頻度  
(自治会アンケートより)

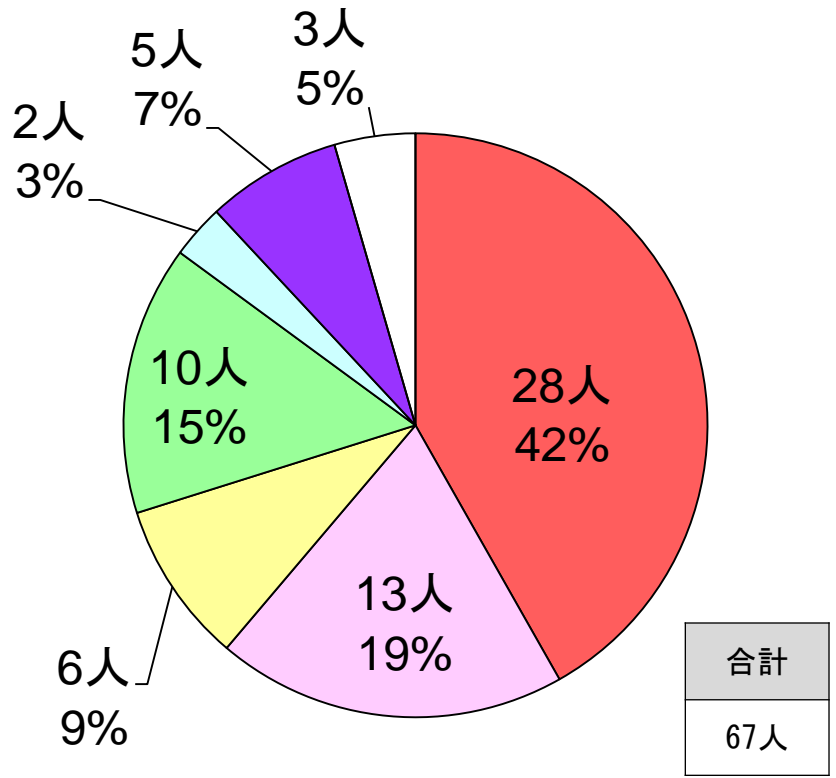
- ほぼ毎日
- 週3～4回
- 週1～2回
- 月1回程度
- 年数回
- 無回答



現在、代行バスを利用している  
回答者が対象

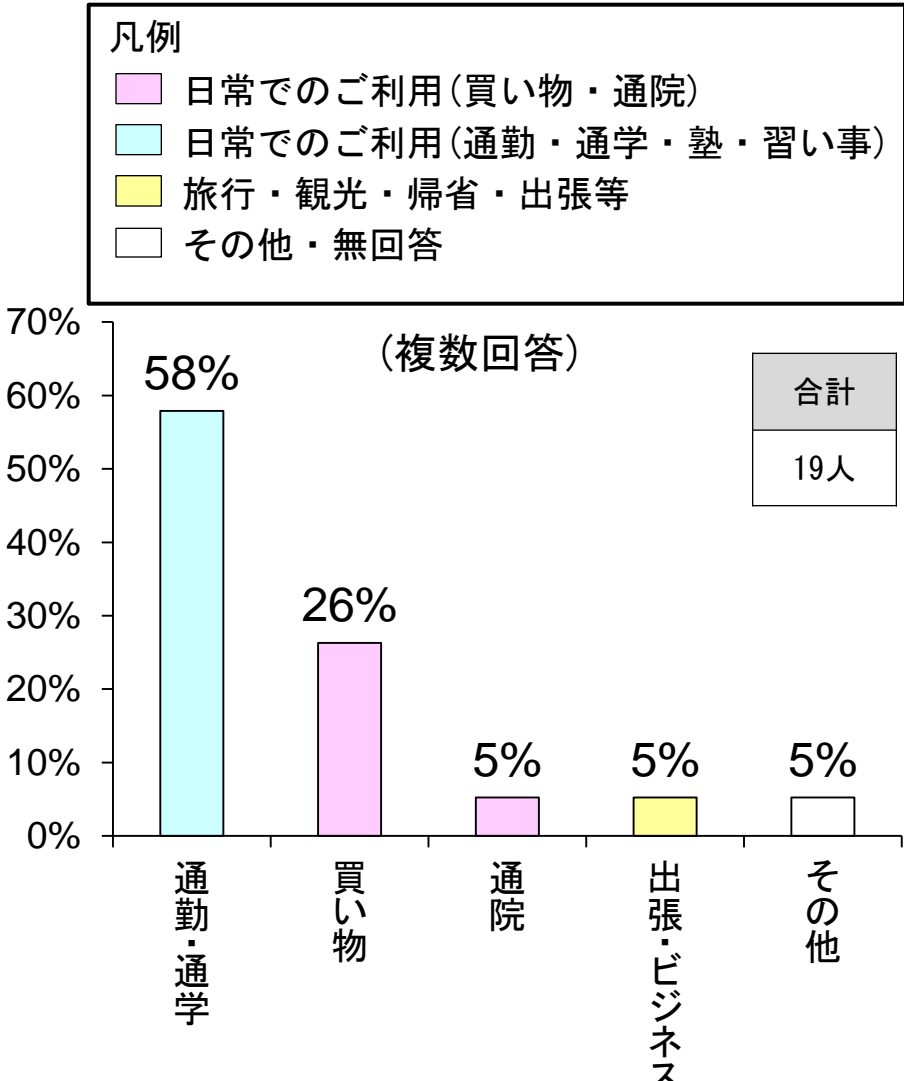
【参考】 代行バス利用者の利用頻度  
(車内アンケートより)

- ほぼ毎日
- 週3～4回
- 週1～2回
- 月1回
- 年数回
- 初乗車
- 無回答



車内アンケート回答者が対象

図11 代行バスを、頻繁※に利用する方の  
目的別利用状況  
※1週間に3回以上のご利用の方



【参考】 車内アンケート回答者の  
目的別利用状況

